

物流から価値を



三井倉庫ホールディングス株式会社

2025年3月期第1四半期決算説明会

2024年8月7日

イベント概要

[企業名]	三井倉庫ホールディングス株式会社		
[企業 ID]	9302		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 3 月期第 1 四半期決算説明会		
[決算期]	2025 年度 第 1 四半期		
[日程]	2024 年 8 月 7 日		
[ページ数]	19		
[時間]	16:00 – 16:29 (合計：29 分、登壇：12 分、質疑応答：17 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	1 名 代表取締役専務取締役 中山 信夫 (以下、中山)		

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより、三井倉庫ホールディングス株式会社の2025年3月期第1四半期決算説明会を開催させていただきます。本日の資料は、三井倉庫ホールディングス株式会社のホームページに掲載をさせていただいております。また、画面下のチャット欄でも資料のURLをご案内しております。ご質問につきましては、画面下のQ&Aボタンから受付をいたしております。ご質問をご入力いただき、送信ボタンをクリックしてください。

また、本日はアンケートを実施しております。質疑応答終了後に、画面がアンケート入力画面に切り替わります。表示される画面よりご入力くださいませ。ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。それでは、中山専務、よろしくお願いいたします。

中山：三井倉庫ホールディングスの中山でございます。本日は説明会に参加していただきまして、誠にありがとうございます。それでは、2025年3月期第1四半期決算について、説明資料に沿いながらご説明申し上げます。

☑ エグゼクティブ・サマリー

25/3期 1Q実績	航空貨物輸送の仕入運賃単価の上昇による運賃差益の縮小、 及び不動産事業における主要ビルの一時的な空室の発生により減益 営業収益 656億円 前年同期比 ▲0.6% 営業利益 38億円 前年同期比 ▲37.8%
25/3期 通期累計 見通し	船落ちによる緊急性の高い航空輸送の発生等により営業利益を上方修正 不動産事業の主要ビルのリーシングは計画通り進捗 営業収益 2,750億円 前回予想比 - 営業利益 155億円 前回予想比 +3.3%
株主還元	配当性向30%を基準とした業績に連動した配当の実施が基本方針 25/3期は中計進捗状況や株主との対話も踏まえ146円を下限に設定 中間配当 73円(予想) 期末配当 73円(予想) 年間配当 146円(予想) 予想配当性向 41.8%

2

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2 ページをご覧ください。まず最初に、第 1 四半期の実績および通期見通しのサマリーについてご説明いたします。

詳細は後ほどご説明いたしますが、第 1 四半期の実績は、航空貨物輸送の仕入運賃単価の上昇による運賃差益の縮小、および不動産事業における主要ビルのマルチテナント化に伴う一時的な空室の発生により、減益となりました。

業績見通しにつきましては、当初計画には織り込んでいなかった海上コンテナ不足に伴う船落ちによる緊急性の高い航空貨物輸送の発生等により、上期の業績予想を上方修正いたしました。また、上期の上振れ分だけを反映する形で通期の業績見通しも修正しております。

第 1 四半期実績の概要

- ・ 企業の在庫調整局面は一服し国際輸送の荷動きは横ばいで推移
- ・ 航空貨物輸送の仕入運賃単価の上昇により運賃差益は縮小し、
加えて、不動産事業における主要ビルの一時的な空室の発生により減益

連結合計	24/3期 1Q	25/3期 1Q	前年同期比	(単位：億円)
				増減率
営業収益	660	656	▲4	▲0.6%
営業利益	62	38	▲24	▲37.8%
〔 営業利益率	9.3%	5.8%	▲3.5pt	—
経常利益	65	40	▲25	▲38.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	38	30	▲8	▲21.3%

4

4 ページをご覧ください。

第 1 四半期の実績につきましては、ご覧の資料に記載のとおり、営業収益はほぼ横ばい、営業利益は前年同期比で減益となっております。企業の在庫調整は一服し、国際輸送の荷動きは横ばいで推移しましたが、冒頭にご説明したとおり、運賃差益の縮小および不動産事業の一過性の賃料収入減により、減益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

セグメント別業績

(単位：億円)

事業セグメント	24/3期 1Q	25/3期 1Q	前年同期比	増減率
営業収益	660	656	▲4	▲0.6%
物流事業	640	645	+5	+0.7%
倉庫・港湾運送	307	320	+13	+4.1%
航空貨物FWD	105	90	▲15	▲14.0%
3PL・LLP	190	199	+9	+4.6%
陸上貨物運送	69	67	▲2	▲4.0%
内部取引消去	▲31	▲30	+1	—
不動産事業	22	13	▲9	▲38.2%
全社・消去	▲2	▲2	▲0	—
営業利益	62	38	▲24	▲37.8%
物流事業	59	46	▲13	▲21.6%
倉庫・港湾運送	20	17	▲3	▲13.9%
航空貨物FWD	20	8	▲12	▲61.0%
3PL・LLP	15	18	+3	+15.9%
陸上貨物運送	4	5	+1	+3.1%
連結調整等	▲1	▲1	▲0	—
不動産事業	13	4	▲9	▲72.8%
全社・消去	▲11	▲12	▲1	—

- 米欧州を中心に運賃上昇による増収
- ハイファッション物流の新規業務の開始、及びEC関連物流の取扱増加により増収
- 一部路線の運賃上昇や、船落ちによる海上から航空へのシフトが発生するも、自動車関連貨物の取扱低調

- 欧州における新規拠点の立上コストの発生、等
- 前期は仕入運賃の下落局面において差益が拡大していたが、今期は仕入運賃の上昇局面において差益が縮小
- 九州における半導体物流の取扱が増加
- 積載率の向上等の効率化
- 主要ビルにおけるテナント入替の影響により一時的に空室が発生

5

5 ページをご覧ください。セグメント別の業績についてご説明いたします。

下段の営業利益をご覧ください。倉庫・港湾運送については、ハイファッション物流の新規業務の開始等もあり、取扱いは増加傾向にあるものの、欧州における新規拠点の立ち上げコストの発生等もあり、減益となっております。

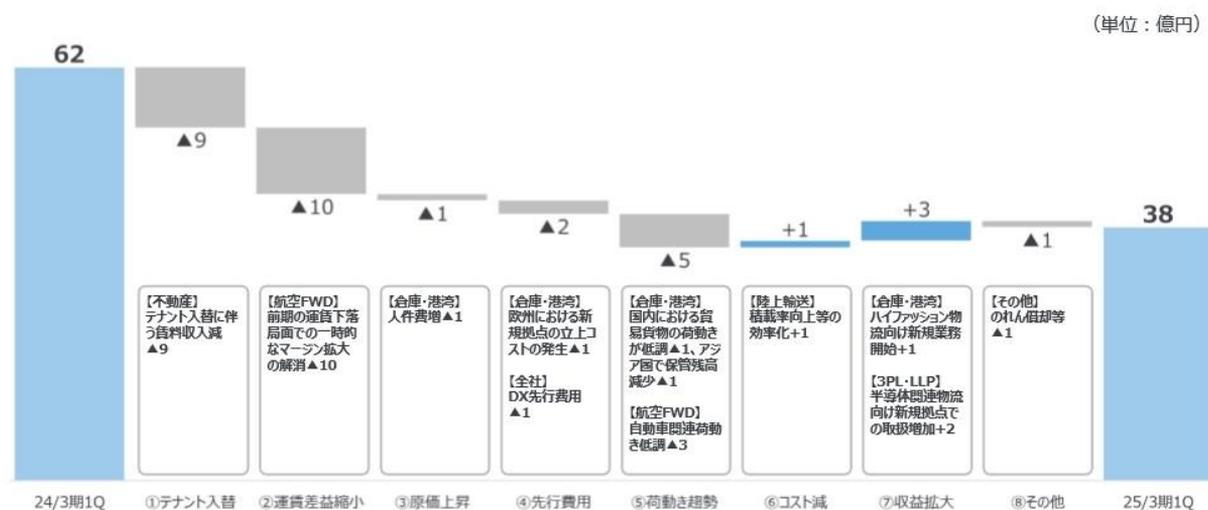
航空貨物フォワーディングに関しましては、冒頭にご説明したとおり、マージンの縮小を主因に減益となりました。3PL・LLP については、九州における半導体物流の取扱い増加により、増益となっております。不動産事業に関しましても、繰り返しになりますが、テナント入れ換えの影響により減益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

☑ 営業利益増減要因

- 不動産事業の主要ビルにおけるテナント入替に伴い一過性の収入減
- 前上期に発生していた運賃下落局面での一時的なマージン拡大は解消し、輸出入や自動車関連の荷動きは低調に推移
- ハイファッション物流新規業務の開始や、半導体関連の取扱が増加し注力分野の収益拡大に貢献



6

6 ページをご覧ください。営業利益の増減要因についてご説明いたします。

ステップチャートをご覧ください。①と②が、先ほどから申し上げております不動産と航空による減益です。コスト面の要因としましては③の人件費等の増加や、④の新規拠点の立ち上げコスト等の発生がございました。

⑤の荷動きの趨勢については、国内における貿易貨物の荷動きが低調に推移したことに加えて、海外では主に東南アジアにて保管残高が低調に推移いたしました。自動車関連貨物の国際輸送も、前年同期に比べると取扱いは減少しております。

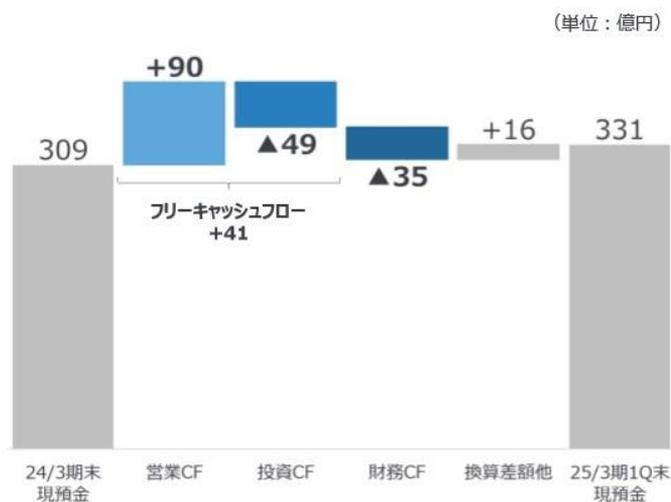
⑥の積載効率向上等のコスト削減の取組みの進捗に加えて、⑦については、先ほど申し上げましたハイファッション物流や、昨年新設した九州の半導体関連物流向けの新拠点における取扱いが増加しました。厳しい事業環境や一過性のマイナス要因がある中ではありますが、注力分野においては着実に収益拡大の取組みが進捗しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

☑ キャッシュフローの状況

- 営業キャッシュフローは純利益の計上を主因に90億円のキャッシュイン
- 箱崎ビルのマルチテナント化投資、DX戦略に基づくソフトウェア投資、中国エリアの合弁企業の株式追加取得を実施



キャッシュ・フローの主な内訳

• 営業CF	: +90
税金等調整前純利益	: +45
減価償却費/のれん償却費	: +26
売上債権/仕入債務の増減	: ▲17
法人税等	: ▲18
• 投資CF	: ▲49
設備投資	: ▲40
ソフトウェア投資	: ▲7
株式取得	: ▲4
(小計) フリーキャッシュフロー	: +41
• 財務CF	: ▲35
借入金・社債増減 (ネット)	: 5
配当金支払	: ▲20
• 現預金の増減合計	: 22

7

7ページをご覧ください。キャッシュフローの状況についてご説明いたします。

営業キャッシュフローは、ここに記載のとおり、90億円のキャッシュイン。投資キャッシュフローは、箱崎ビルのバリューアップ工事や中国での合弁企業の株式追加取得を実施し、49億円のキャッシュアウトとなりました。

フリーキャッシュフローは主に配当金の支払いに充当し、財務キャッシュフローは35億円のキャッシュアウトとなっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

☑ バランスシートの状況

- 着実な利益の積上げにより、自己資本比率やD/Eレシオが改善
- 今後の戦略投資実行への余力を備えた安定的なバランスシートを実現

(単位：億円)

連結合計	24/3期末	25/3期 1Q末	前期末比
総資産	2,635	2,750	+115
現金及び預金	319	338	+19
売上債権	303	316	+13
有形・無形固定資産	1,512	1,532	+20
有利子負債（リース債務含）	833	838	+5
借入金・社債	767	773	+6
リース債務	65	64	▲1
自己資本	1,099	1,143	+44
自己資本比率	41.7%	41.6%	▲0.1
D/Eレシオ	0.76	0.73	▲0.03

• のれん (+10億円)

• 自己資本の増減理由は、
 当期利益+30億円
 配当▲20億円
 為替換算調整勘定+24億円
 有価証券評価差額+10億円

8

8 ページをご覧ください。バランスシートの状況についてご説明いたします。

利益の積み上げや為替の影響等により、D/E レシオは 0.73 倍まで改善しております。今後の投資実行に向けて、十分な余力を確保した次第です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2025年3月期見通しの概要

- 営業利益は5月公表の上期業績見通しに対して想定を上回って進捗し、上期業績予想を上方修正（通期業績予想の修正は、上期の上振れ分のみを反映）
- 一部の路線で船落ちによる航空輸送が発生し業績が好調に推移したことに加え、九州地区での半導体関連物流の取扱増加や、適正料金収受及び効率化の取組みが前倒しで進捗
- 箱崎ビルのリテナントは計画通り進捗

(単位：億円)

連結合計	1Q実績	従来 上期予想	進捗率	修正 上期予想	前回予想比	修正 通期予想	前回予想比
営業収益	656	1,350	48.6%	1,350	—	2,750	—
営業利益	38	72	53.2%	77	+5	155	+5
経常利益	40	67	59.6%	73	+6	148	+6
親会社株主に帰属 する当期純利益	30	44	67.6%	46	+2	87	+2

10

続きまして、25年3月期の業績見通しについてご説明いたします。資料10ページをご覧ください。

足元の業績は、5月公表の上期業績見通しに対して想定を上回って進捗しております。これを受け、上期の業績予想を上方修正いたしました。冒頭にご説明しましたとおり、一部の路線において船落ちによる緊急の航空輸送が発生していることが主な要因です。なお、通期の業績見通しに関しましては、下期の見通しを据え置き、上期の上振れ分だけを反映する形で修正しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

セグメント別業績見通し

(単位：億円)

事業セグメント	1Q実績	従来		修正			
		上期予想	進捗率	上期予想	前回予想比	通期予想	前回予想比
営業収益	656	1,350	48.6%	1,350	—	2,750	—
物流事業	645	1,322	48.8%	1,322	—	2,689	—
倉庫・港湾運送	320	662	48.3%	662	—	1,354	—
航空貨物FWD	90	191	47.1%	191	—	400	—
3PL・LLP	199	390	50.9%	390	—	782	—
陸上貨物運送	67	135	49.4%	135	—	268	—
内部取引消去	▲30	▲56	—	▲56	—	▲115	—
不動産事業	13	30	44.8%	30	—	66	—
全社・消去	▲2	▲2	—	▲2	—	▲5	—
営業利益	38	72	53.2%	77	+5	155	+5
物流事業	46	89	52.2%	94	+5	194	+5
倉庫・港湾運送	17	35	48.6%	36	+1	79	+1
航空貨物FWD	8	16	49.8%	18	+2	37	+2
3PL・LLP	18	31	57.2%	33	+2	65	+2
陸上貨物運送	5	8	57.3%	8	—	15	—
連結調整等	▲1	▲1	85.9%	▲1	—	▲2	—
不動産事業	4	8	43.9%	8	—	19	—
全社・消去	▲12	▲25	46.6%	▲25	—	▲58	—

- ・ 収受料金適正化が想定よりも前倒しで進捗し、原価上昇の影響を抑制
- ・ 海上から航空輸送へのシフト（船落ち）発生
- ・ 半導体物流取扱増
・ 効率化の取組進捗
- ・ 箱崎ビルのリテナントは25/3末に75%程度の入居率に向け計画通り進捗

11

11 ページをご覧ください。セグメント別の業績見通しについてご説明いたします。

下段の営業利益のほうをご覧ください。セグメント別では物流事業の中の倉庫・港湾運送、航空貨物フォワーディング、3PL・LLPの利益見通しを引き上げました。

倉庫・港湾運送は期初予想の段階では一定程度の原価上昇の影響を見込んでおりましたが、お客様からの収受料金適正化の取組みが予定よりも前倒しで進捗し、原価上昇の影響を想定よりも抑えることができました。

航空貨物フォワーディングは、先ほど申しましたとおり、船落ちの影響による増益です。また、3PL・LLPにおいては、半導体関連物流の取扱いが計画を上回って好調に推移しております。

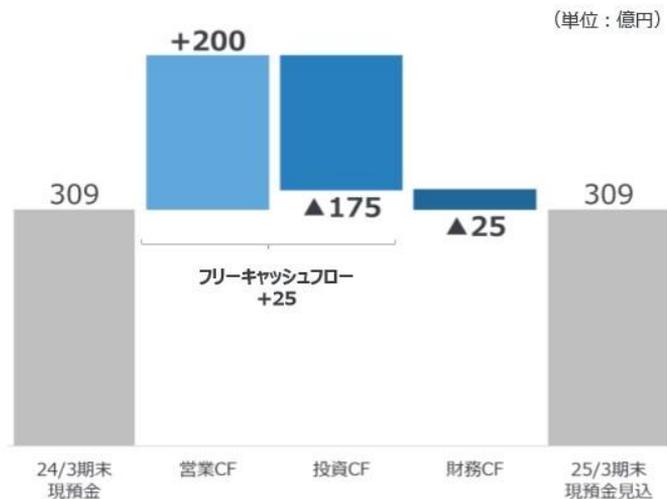
最後に、不動産事業の箱崎ビルのマルチテナント化後のリーシングの進捗状況について申し上げます。25年3月期末に75%程度の入居率を計画しておりますが、現在までのところ、リーシング活動はこの計画どおり順調に進捗しており、通期の業績については公表済みの業績見通しに沿って着地するものと見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

☑ キャッシュフロー見通し

- 営業キャッシュフローは200億円のキャッシュインを見込む
- DX投資、及び物流施設の新設拡大・維持更新投資の実行に加え、箱崎ビルマルチテナント化工事代金を支出予定



キャッシュ・フローの主な内訳 (予想)

• 営業CF	: +200
減価償却費/のれん償却費	: +110
• 投資CF	: ▲175
設備投資	: ▲140
ソフトウェア投資	: ▲30
株式取得	: ▲5
(小計) フリーキャッシュフロー	: +25
• 財務CF	: ▲25
借入金・社債増減 (ネット)	: +40
配当金支払	: ▲38
リース債務支払、等	: ▲27
• 現預金の増減合計	: ±0

12

12 ページをご覧ください。キャッシュフローの見通しについてご説明いたします。

投資キャッシュフローの見通しの中に、設備投資を 140 億円見込んでおります。DX 投資に加えて、物流施設の新設拡大投資や箱崎ビルのバリューアップ工事の実施による支出を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

☑ バランスシート見通し

- 有利子負債は増加するも、D/Eレシオは1.0倍を切る水準で推移する見通し
- さらなる戦略投資の実行に備えて投資余力を確保した状態を維持

(単位：億円)

連結合計	24/3期末 実績	25/3期末 予想	前期末比
総資産	2,635	2,790	+155
現金及び預金	319	330	+11
売上債権	303	315	+12
有形・無形固定資産	1,512	1,570	+58
有利子負債（リース債務含）	833	870	+37
借入金・社債	767	805	+38
リース債務	65	65	▲0
自己資本	1,099	1,180	+81
自己資本比率	41.7%	42.3%	+0.6
D/Eレシオ	0.76	0.74	▲0.02

・ 箱崎ビルのマルチテナント化工事の実施による有形固定資産の増加を見込む

13

13 ページをご覧ください。バランスシートの見通しにつきご説明いたします。

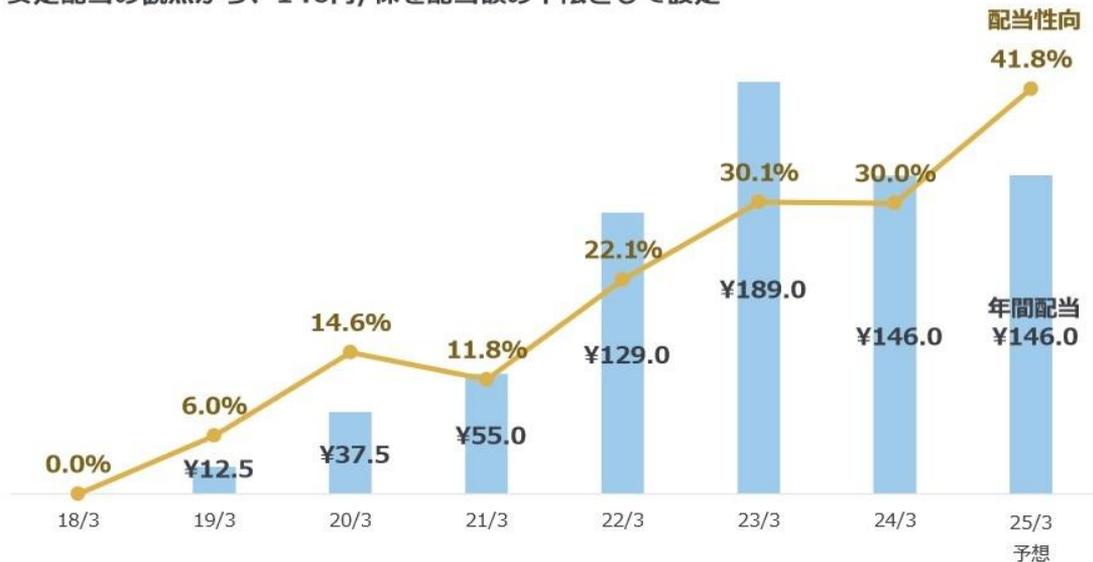
25年3月期末のD/Eレシオは、前期末からほぼ横ばいの0.74倍を見込んでおります。今後の成長投資の計画や、株主還元等のバランスも踏まえ、引き続き、中計最終年度に向けた中期的な目線でD/Eレシオ1.0倍を基準に、バランスシートをコントロールしてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

☑ 株主還元

- 利益成長に即した増配の実施により、株主還元の強化を継続
配当性向30%を基準とした業績連動による機動的な配当を行う方針
- 25/3期は所有不動産のマルチテナント化の影響により一過性の減益の見込みも、
安定配当の観点から、146円/株を配当額の下限として設定



15

15 ページをご覧ください。株主還元についてご説明いたします。

当社は年間配当性向 30%を基準に、業績に連動した機動的な配当を実施しております。これは、当社の成長戦略の実行に伴う利益の成長を株主の皆様へ機動的に還元することを意図したものであります。25年3月期につきましては、一過性の減益が想定されるものの、株主の皆様との対話を踏まえて、安定配当の観点から、1株あたり146円の配当を下限として設定しております。

以上で、私からの説明を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

質疑応答

司会 [M]：それでは、質疑応答に移らせていただく前に、まず、決算発表後によく頂いておりますご質問をご紹介します。一つ目のご質問です。

質問者 [Q]：今回上方修正されていますが、1Qの実績が上振れた分だけ反映しているのでしょうか。2Qの見通しが上振れた分も含めての話なのでしょうか。

中山 [A]：では、回答申し上げます。この修正につきましては、大半が1クォーターの実績上振れ分を反映したものであります。下期も含め、2クォーター以降につきましては、今回の修正には不確定要素も多々ございますので、織り込んでおりません。

足元の船落ちの見通しではありますが、ご案内のとおり、グローバルな海上輸送、航空輸送につきましては、スエズ運河、あるいはパナマ運河の状況が今後どう変化していくのか。あるいはカナダ、米国、東海岸の港湾労使交渉の行く末がどうなってくるのか。はたまた、空コンテナの需給がどうなるのか。新規コンテナ船の投入がどうなるのかという需給関係の先行き。

より基本的には、多くの荷主さんのコロナ禍における在庫を厚めに積み上げてきたと。こういう中で、売上や生産の変化に対して、一部の部品や資材が間に合わない事態が発生し得る可能性があります。

その際には、緊急航空輸送という形でわれわれが対応させていただくということが、7月の動きを見ておりましたも、今後そういうことになった場合にどう対応するのかということにつきまして、お客様から多くのご相談を受けておるところでございます。

この点につきましては、第2クォーターを締めまして、上半期決算の段階において、より先行きも含めて見通しがつくものと考えておりますので、その際には改めて皆様と情報を共有したいと考えているところであります。以上です。

質問者 [Q]：続いてのご質問です。不動産事業について、箱崎ビルのリーシング状況はいかがでしょう。

中山 [A]：では、回答申し上げます。まず、東京都心のオフィスビルの賃貸状況につきましては、空室率はやや下がってきている。賃料はやや上昇しているということで、私どものリーシング営業の観点からは、ややフォローウインドが吹いていると。そういう中で、強力にリーシング活動を展開しているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



25年3月期末には、箱崎ビルの賃貸可能面積の約75%まで埋めるという計画を現在立てておりますが、今までの進捗状況からすると、これは十分達成可能と。順調に進捗しているというところがございます。この状況につきましても、逐次情報を開示させていただくつもりでおります。以上です。

司会 [M]：それでは、質疑応答に移らせていただきます。ご質問につきましては、Q&A ボタンから受付をいたしております。ご質問を入力いただき、送信ボタンをクリックしてください。なお、お時間の関係上、全てのご質問にお答えできない場合がございます。ご了承ください。最初のご質問をご紹介します。

質問者 [Q]：荷動きの全体感と料金改定の進捗について、2Q以降の見通しを教えてください。

中山 [A]：回答申し上げます。荷動きについては、私ども、今期の予算を策定した段階、すなわち本年の3月の段階では、上半期末、9月ごろから反転してくるのではないかと見ておりました。したがって、予算も上期に比べて下期のほうがやや厚めの予算を組んできております。

1クォーターの内外の荷動きを見ておきますと、地域によってばらつきがありますが、底を打った感じはしております。ただ、その力強さ、持続性については、まだ見極めるのには時間が必要かなと考えております。

では、国内でこういったところが荷動きがいいのかと。ご案内のとおり、物価上昇に伴って消費、購買力のところがなかなか回復してこないという状況はありますけれども、例えば消費財の中で言いますと、エアコン等は非常に堅調に推移して、普通ですと8月のこの時期になるともう止まるんですけど、猛暑ということもあって、引き続きこれは続きそうな感じがしています。

それから、半導体の分野については、九州、北海道における新規投資というのはどんどん進んでおりますし、既存設備についても生産が非常に堅調ということで、私どもの九州の取扱いなんかもこのところは堅調です。

それから、海外に目を向けると、ヨーロッパはまずまず。アメリカはやはり消費市場が、何だかんだ言ってもやはり堅調です。今後、金利引き下げの議論等が出てくる中で、景気が持続するのかどうかというのは一つのポイントかなと。

それから、中国は不動産不況のところ、政府のテコ入れで今回回復させようと動いておりますが、消費財のところもちょっと弱かったんですけど、7月ごろから一部に回復の兆しも見えてくると。ただ、中国自体が輸出ドライブで景気を浮揚させようということで、欧米・アジア向けに輸出のところに非常に力を入れているという状況です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



東南アジアは、世界的に見るとやや足が重いのかなということで、東南アジアはちょっと気がかりというのが現状でして、2クォーターに向けて全般的には回復していくと見ておりますけれども、ご案内のとおり、為替市場、金融市場も非常に乱高下して混乱している状況の中で、消費や生産にどのようなインパクトを与えていくのかというのを注視しながら、運営していきたいと思っております。

一方、コスト上昇につきましては、内外ともにやはり人件費のところは着実に上がっておりますし、私どものベンダーさんのほうも、それを踏まえて料金改定のお話は従来から頂いているところで、一部についてはそれに対応させていただいていると。私どものところのコストアップも当然お客様にお願いしているということです。

ただ、単純に上がった分、そのまま転嫁ということでは、世の中なかなか通用しませんので、やはりベンダーさんとわれわれと一緒にになって効率化する。われわれとお客様と一緒にになって効率化していく。そういう中で納得づくで料金改定を進めていくことが、今期に入ってややスピードが上がってきたのかなということでもあります。

この取組みは2クォーター以降も緩めることなく、コストは下がることはないと考えていますので、効率化と料金改定の交渉というのは継続的に取り組んでいく方針であります。以上です。

質問者 [Q]：次のご質問です。メーカーの物流再編によって、御社の事業機会が拡大している感触はありますでしょうか。

中山 [A]：お答えいたします。これは以前にもお話ししたことがあるかも知れないですが、コロナの間にグローバルなサプライチェーンに歪みや止まりが発生して、物が届けられない、あるいは生産できないという事態に多くのメーカーさんが直面して、それでいろんな手当てをしてきたという中で、物流の重要性や見直しについて、やはりこれは相当進んできていると。

ただ、マーケット環境は、先ほど船落ちのところで申しましたように、グローバルの物流を取り巻く環境というのは非常に激しく変化しているので、この変化点の対応というのは、完璧なものはないかなかなか見出せないという状況で。

そこでわれわれ物流業者のノウハウや知恵が活かされるということで、その種の相談事は船落ち対応のみならず、国内における物流、あるいはその裏にある商流の見直しというのは進んでおります。そこへのわれわれの提案営業という新たなビジネスチャンスは生まれているということで、そこをどう取り込んでいくかというのがわれわれの今後の業績を大きく左右するものだという認識で、組織を挙げて取り組んでいるところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



お答えになったかどうかちょっとあれなんですけれど、以上、回答申し上げます。

質問者 [Q]：次のご質問です。船落ち貨物の獲得は御社固有の現象でしょうか。あるいは、航空貨物市場全体で起きているのでしょうか。

中山 [A]：では、回答申し上げます。過去の例から言うと、航空フォワーディングをやっているメジャーなプレーヤーは船落ち対応をしてきたということでもあります。では、ただ今現在はどうかというと、船落ちも、それぞれメーカーさんがある程度在庫を厚くするとか、流通在庫、あるいは現地生産資材在庫、製品在庫を含めてそういうことを進めておられますので、緊急性を伴うような船落ちというのは現状、まだそれほど大量に発生していないと。

今後どれだけ発生してくるかというのは非常に読みづらいんですけど、一つは、お客様の手持ち在庫、全ての資材を厚く持っているのかどうか。例えば化学品メーカーさんですと、製造のために必要な触媒の一部が現地の手持ち在庫が薄くなってきているということで、これは船では間に合わないということで相談を受けて、われわれも飛行機を飛ばすということがありました。

結局、お客様の変化点对応の状況によって、どう顕在化してくるのかということになって、私どもは過去の経験を生かして、お客様の変化点对応やあらゆるニーズに対応できるように、情報の早期入手と調達の迅速化・多角化を図ってニーズに応えようという体制で取り組んでおります。

先がなかなか見えないですけど、そういうニーズがあれば確実に取り組んでいくということで取り組んでおります。以上です。

司会 [M]：ご質問がございましたら、画面下の Q&A ボタンから質問を受け付けております。ご質問を入力いただき、送信ボタンをクリックしてください。画面下の Q&A ボタンからご質問を受け付けております。ご質問を入力いただき、送信ボタンをクリックしてください。

ご質問希望者はいらっしゃいません。中山専務、よろしく申し上げます。

中山 [M]：はい。では、本日はどうもありがとうございました。

司会 [M]：最後にアンケートにご協力のお願いがございます。この後、説明会終了後に画面はアンケート入力画面に切り替わります。表示される画面よりご入力を何とぞよろしくお願いいたします。以上をもちまして、三井倉庫ホールディングス株式会社 2025 年 3 月期第 1 四半期決算説明会を終了させていただきます。本日はご参加いただき、ありがとうございました。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

